

あの日の僕らは
世界一幸せだった





先輩
お疲れ様ですっ



ああ
お疲れ

いっ



俺の憧れの
先輩だ

ギッシ



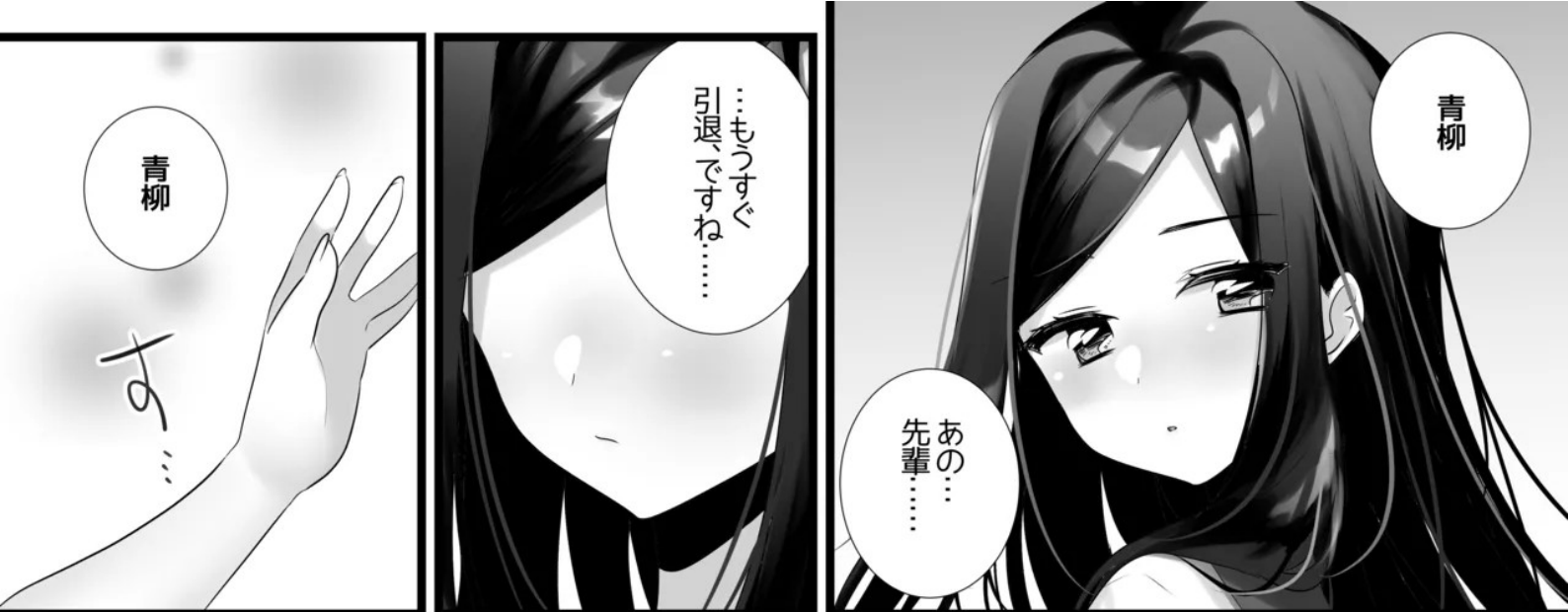
鳴上瑠璃先輩

気高くて美しくて
かっこいい先輩

サッ...



先輩





……へ……？

めちやくちやに
抱いてくれ



……私が
いやらしいことを
知っていたら変か？

いい……



嘘だろ……

せ、先輩……

……ん？

こういうの……
知ってるんですね……

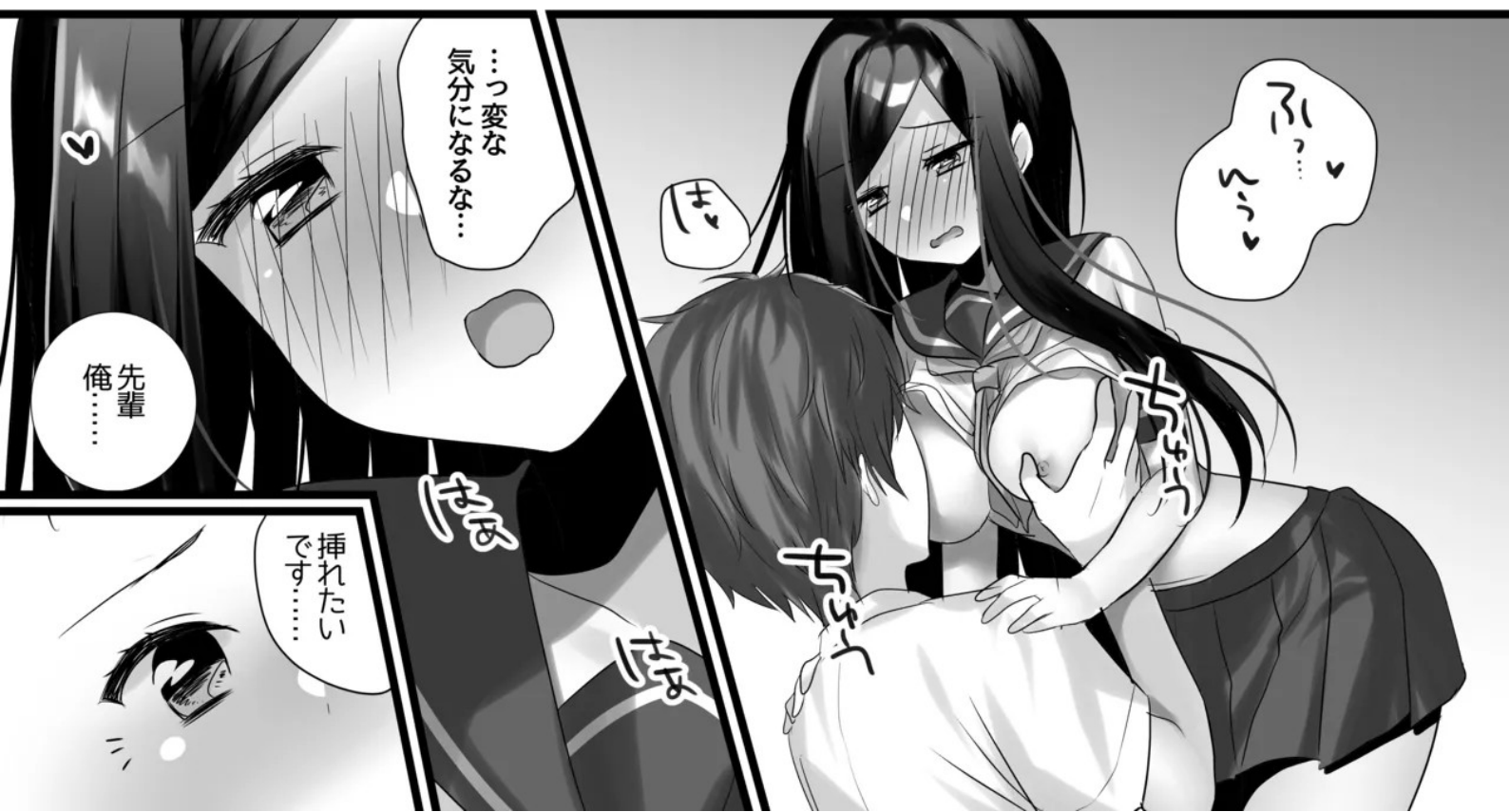
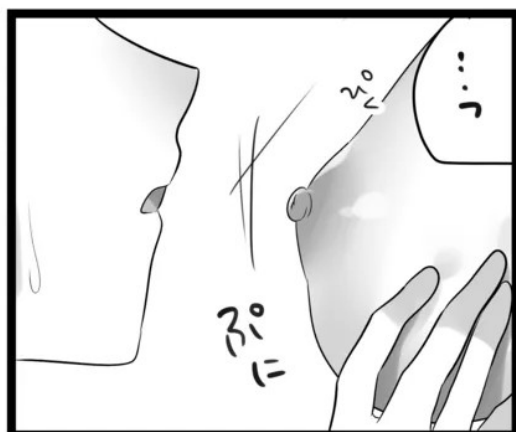
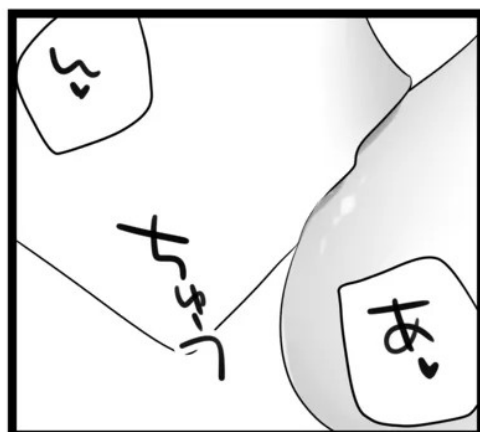
どうして
こんな……



先輩のおっぱい!!



先輩... 私のもさわってくれ....



...つ変な気分になるな...

先輩... 俺...

挿れたいです....



初めて…
好きな人と
できて……

世界一
幸せだったぞ……

ホッ

うれしかった

あの妃以来
俺と先輩の間には
何もなかった
本当に何ひとつなかった
口をきく機会すらなかった

噂では先輩は
家業のため
政略結婚させられて、
知らない男のところへ
嫁いだらしい。
この時代にそんなことが
あるなんて、と驚いた

あの日
強引にでも
先輩を奪っておけばと
今でも後悔している

EX. 瑠璃の気持ち



鳴上先輩って
厳しいし
コワいし苦手
なんだよね

あ、わかる
あたしも

練習終わってからも
ずっとあんな感じ
だもんね

そうそう
絡みづらいつていうか
話しかけても
つまらないんだよね
真面目すぎて

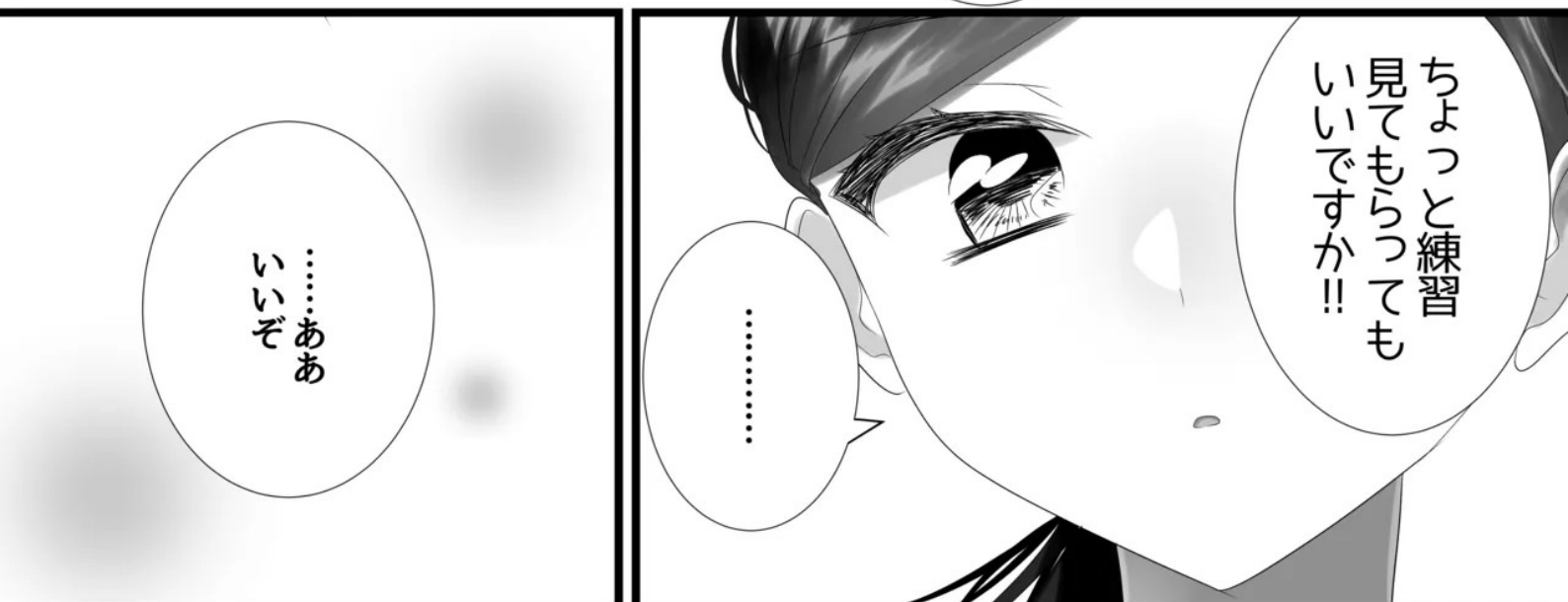
あたしらのこと
嫌いなんじゃない？w



……青柳か

鳴上先輩！
お疲れ様です！！

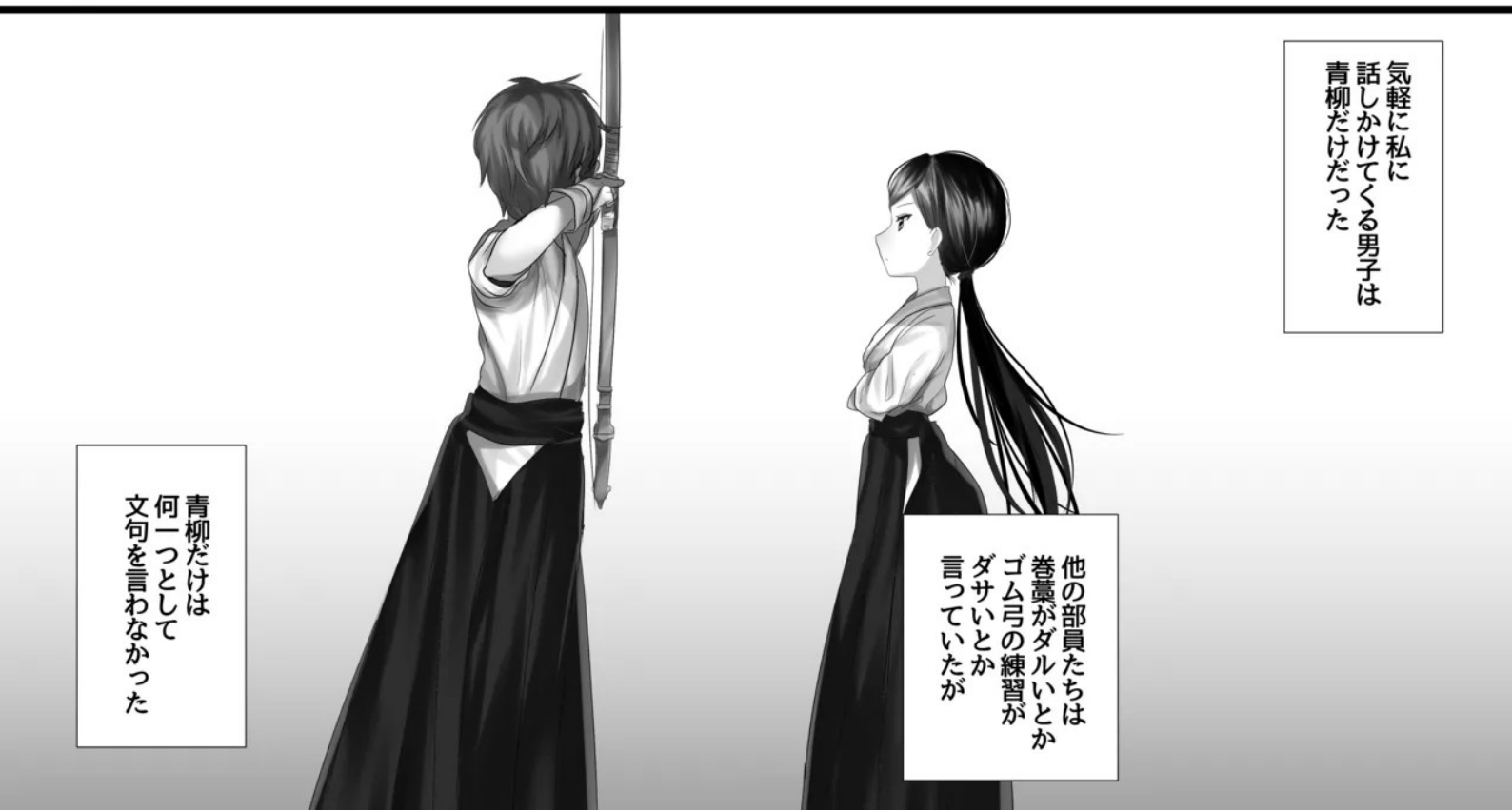
……



ちよつと練習
見てもらつても
いいですか！！

……

……ああ
いいぞ



気軽に私に
話しかけてくる男子は
青柳だけだった

他の部員たちは
巻藁がダルいとか
ゴム弓の練習が
ダサいとか
言っていたが

青柳だけは
何一つとして
文句を言わなかった

決して弓道が
上手いわけでは
なかったが

その人懐っこさに
私は惹かれていた

ふ

決して弓道が
上手いわけでは
なかったが

その人懐っこさに
私は惹かれていた

ふ

あう

だめ...

結ばれなく
たっていい

はぁ

うん...

いつかお前に
触れられたい

はぁ

恋愛なんて
したところで
意味がないことは
わかっている

ふっ

ぽっ

しかし
理解すればする程
感情が抑えられ
なかった

[illegible][illegible]





最後まで読んでいただきありがとうございました！
瑠璃ちゃんいやいや結婚したけどしたらしたで
めちゃくちゃ幸せになってたらいいいよね

最後4ページの瑠璃ちゃん視点のお話について、
電子版用に加筆しているので紙媒体の本には掲載されていません。
電子限定だよ。

■発行日：2024/03/03
■発行：ねこほんぽ
■印刷所：おたクラブ様

Mail:haruse415meio@yahoo.co.jp
Twitter:haruse_meio

無断転載・アップロードは禁止しております